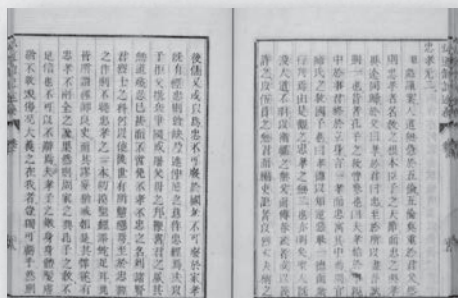


忠孝一本 - 江戸時代のモラリティ -

本特別展は、江戸時代の人々の生活や価値観を紹介し、その文化に息づいていた道德観を再評価することを目指しています。「忠」とは君臣関係、「孝」とは親子関係の在り方を示す儒教的な概念です。江戸時代、これらは「一本」、すなわち同義とみなされていました。現代社会では「忠」は薄れ、江戸時代の概念は姿を消したように考えられていますが、「孝」の精神は失われていないと思います。江戸時代の道德観をそのまま肯定することはできませんが、この展示会が、古の人間関係に思いを馳せながら、人間関係の在り方や社会との調和などを見直す機会となれば幸いです。

展示構成	はじめに	東アジアのモラリティ
	第1部	帝王学 — 『貞観政要』と『帝鑑図説』
	第2部	『孝経』と東アジアの孝子伝
	第3部	地方の孝子伝
	第4部	江戸時代の教育 藩校と寺子屋

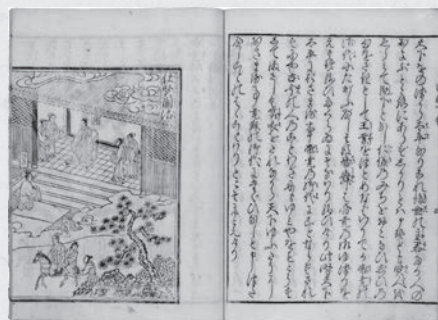


◁『弘道館記述義』

「忠孝一本」の出典。藤田東湖による徳川斉昭『弘道館記』の解説書。解説には東湖の歴史観や倫理観が表されており、会沢正志斎『新論』とともに水戸学を代表する著作とされている。

『帝鑑図説』▷

明の幼帝万暦帝の教育のために刊行された皇帝の治政に関する故事・史評の書であり、善い例81話、悪い例36話を選び、解説にそれぞれ挿絵を添えたもの。本館所蔵本は江戸時代出版の和訳本。



特別講演会

2024/11/6(水)

10:00-12:00

会場

筑波大学中央図書館 集会室
<申込不要>

◎ 和漢の学問を支える神

講師：芸術系准教授 水野裕史

◎ 儒教概念受容に関する東西の特殊性について

講師：人文社会系教授 井川義次